☆神の母聖マリア（１月１日）の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読（民数記　６章　２２-２７）

主はモーセに仰せになった。
アロンとその子らに言いなさい。
あなたたちはイスラエルの人々を祝福して、次のように言いなさい。
主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主が御顔を向けて
あなたを照らしあなたに恵みを与えられるように。
主が御顔をあなたに向けて
あなたに平安を賜るように。
彼らがわたしの名をイスラエルの人々の上に置くとき、
わたしは彼らを祝福するであろう。

答唱詩編（詩編６７）

神のみ旨を行うことは、わたしの心の喜び。

神よ、あわれみと祝福をわたしたちに。
あなたの顔の光をわたしたちの上に照らしてください。
あなたのわざが世界に知られ、
救いがすべての国に知られるように。

諸国の民はあなたをたたえ、
すべての民はあなたを賛美せよ。
すべての国は、喜び歌え。新しい歌を神に歌え。
あなたは民を正しくさばき、諸国の民を導かれる。

地は豊かに実り、
神はわたしたちを祝福された。
地の果てに至るまで、神をおそれ敬え。
神はわたしたちを祝福された。

第二朗読（使徒パウロのガラテヤの教会への手紙 4章 4-7節）

皆さん、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。あなたがたが子であることは、神が、「アッバ、父よ」と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります。ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神によって立てられた相続人でもあるのです。

福音朗読（ルカよる福音書 2章 16-21節）

そして羊飼いたちは急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。 聞いた者は皆、羊飼いたちの話を不思議に思った。 しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

皆様、あけましておめでとうございます。お元気で新年をお迎えになられたことと思います。私も静かなお正月を迎えました。今日は「神の母聖マリアの祭日」です。教会は新しい年の初めにマリアを思い起こさせます。マリアを通して救い主イエスがこの世に来られ救いの神秘が始まったように、今現在もマリアを通して教会が人々の前に救いのしるしとなるようにするためです。マリアが天使のお告げに対して「はい」と答えられたように、私たちも今年与えられる救いの道を「はい」と答えて生きていくようにしましょう。

第一朗読（民数記　６章　２２-２７節）

この個所はイスラエルの民を主である神が祝福の約束をアロンを通して与えたことが読まれています。「主が・・」と三度言われています。強調されていますから、とても大事なことなのです。民を「守り」、「恵みを与え」、「平安を賜る」ようにしてくださるのです。主である神はじっとしておられる方ではないのです。民の必要に忠実に応えて働かれる方なのです。要は私たちが主である神を信じ、私たちに善を望んでおられることを信じ切ることなのです。

答唱詩編（詩編　６７）

すべての国、すべての民に祝福があるように願う祈りの歌です。新年に当たってこの素晴らしい地球上のあらゆる人々の上に神の祝福があるように歌いましょう。

第二朗読（使徒パウロのガラテヤの教会への手紙　４章　４-７節）

パウロのこの手紙は神が人間の救いを歴史の中に実現されたことを強調しています。神の御子がマリアという女性から生まれたことこそ、私たち人間の救いの事実なのです。キリスト教は誰かの思考の、想像の産物ではなく、事実起こったことそして今なお起こり続けていることなのです。

福音朗読（ルカよる福音書　２章　１６-２１節）

福音はマリアとヨセフのもとで飼い葉桶に寝かされている乳飲み子を探し当てた羊飼いたちの様子とマリアの様子を伝えています。マリアは自分が産んだ子を羊飼いや博士たちが拝みに来たことをきっと不思議に思ったことでしょう。普通であれば自分が産んだ子どもが訪問され拝まれることなどあり得ないからです。救い主である「イエス」はマリアを通して人間の体を受けられたのです。マリアなくして救いは実現しなかったのです。マリアの「はい」が必要でした。「ことばがマリアから身体を受け取るために、まさにマリアはそこに存在したのです」と聖アタナシオ司教は言っています。

またマリアはお告げの時の「はい」だけでなく生涯、神からの申し出に「はい」と答え続けられたのです。教会は今日の祝日を通して、マリアをほめたたえると同時に、教会の歩みを見守ってくださることを願っています。今日から始まる新しい年が神の母マリア様の保護のもとに平和でありますように祈りましょう。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光